

第二次朝鮮半島危機の教訓—平和と非核化のための政策—

小此木政夫（慶應義塾大学名誉教授）

はじめに／地域研究者の地政学的な安全保障論

1 北朝鮮—核・ミサイル開発の急進展

驚くべき計画性／15.10.30 第7回労働党大会の5月初め開催を発表

第1段階／2回の核実験と新型ミサイルの誇示、瀬戸際政策の準備

15.12.10 金正恩、「水素爆弾の巨大な爆発音を轟かせることができる強大な核保有国になった」→16.01.06 第4回核実験

16.02.07 テポドン2号改良型ロケットで「人工衛星」打ち上げ

03.15 金正恩、「早い時期に核弾頭爆発実験と弾道ロケット発射実験を断行する」
———第7回朝鮮労働党大会(5.06-09)

06.22 ムスダン／07.19 スカッド、ノドン／04.22、08.24 SLBM 試射に成功

09.05 新型スカッド(SCUD-ER)3連射→09.09 第5回核実験（建国記念日）

09.20 新型エンジンの燃焼実験→金正恩、「発射準備を急いで終えろ」

・脅威の深刻化／「次元の異なる脅威」（安倍）→西日本が射程圏内に／核弾頭実験

核兵器の量産化／ウラン濃縮を含めて2020年までに50~100発？

李容浩の国連演説 9.20 「核戦力を質量ともに増強する政策をとり続ける」

・軍事目標／①青瓦台と韓国の政府機関+②アジア太平洋地域の米軍基地と米本土

・政治目標／オバマ政権の「戦略的忍耐」を破綻させ、米国の新大統領に政策転換を要求

第2段階／第1段階と第2段階の間にトランプ政権誕生、朴槿恵大統領弾劾

17.02.12 新型ミサイル「北極星2」発射→日米首脳会談当日に／地上発射式のSLBM
固体燃料使用、移動発射式、東京が射程圏内に

03.06 SCUD-ER の四発同時発射／発射訓練と発表

05.05 米中首脳会談の前日に新型ミサイル発射→失敗

05.14 新型ミサイル「火星12」／中距離ミサイル→グアムが射程圏内に

ロフテッド発射 2000km／大気圏再突入実験に成功の様相→次はICBM？

・政治目標／北朝鮮との交渉に慎重なトランプ政権（マチス訪韓・訪日）を挑発

日米首脳会談に合わせて「北極星2」、一帯一路会議に「火星12」発射

トランプ政権とのディールが成立しなければ、第三段階に突入するとの恐喝

・中央通信報道 05.15／金正恩は「米国とその追従勢力が正気を取り戻して正しい選択をするまで、高度に精密化、多様化された核兵器と核打撃手段をさらに多く製作し、必要な試験をさらに進めることに関する命令」を下し、「米国は、無駄な軽率妄動によってわが共和国を下手に傷つければ、史上最大の災難を免れない」と強く警告した—対米メッセージ／無条件交渉

2. 脅威の源泉—分断国家の核保有／ローカルな起源

- ・米ソ中などの大国の核相互抑止論とは異なる論理→異質性への恐怖／制御できるか？
原点／二つの正統性原理の対立→体制間の生存競争／戦争、崩壊、共存、統一など
南／ウィルソン主義＋三・一独立運動、重慶臨時政府→李承晩独裁、軍事体制
北／スターリン主義＋金日成／パルチザン闘争、根拠地論→解放後は南革命を追求
- ・韓国／軍事体制下の経済開発に成功→冷戦末期に民主化、オリンピック、中ソと国交
- ・北朝鮮／経済建設、ソ日中外交に失敗、金日成死去と自然災害→核・ミサイル開発
- ・金正日にとって、核武装は国家の生存戦略だった／体制維持が目的、手段が核ミサイル
- ・三つの本質的な疑問

- ①北朝鮮の初歩的な核抑止能力だけで体制を維持できるか→①交渉の可能性
制裁の拡大・長期化／国際協力なしの経済開発は不可能→核兵器は食べられない
- ②体制維持が困難になったとき、北朝鮮は黙って崩壊するか→②暴発の可能性
北朝鮮には南ベトナムや東ドイツとは異なる正統性原理がある／抵抗文化
- ③体制維持が確実になったとき、北朝鮮はそれだけで満足するか→③再挑発の可能性
長期的かつ安定的な南北共存のための国際保障が不可欠→金大中の四大国保障論

- ・文在寅政権は南北対話に向かう／左派政権の「対北宥和」は民族主義
米中共同の経済制裁拡大＋南北経済協力＝核兵器・弾道ミサイル開発の凍結→南北共存
新政権の外交人事 05.21／隠された布陣は二人の「統一外交安保大統領特別補佐官」
洪錫玄（元駐米大使・前中央日報会長）、文正仁（延世大学名誉特任教授）
トランプ政権と調整しながら南北対話を推進し、非核化と南北協力を段階的に結合

3. トランプ政権の対応

- ・ABO／「戦略的忍耐」（無視と制裁）の終焉→「机の上にはすべての選択肢がある」／カー
ル・ビンソン派遣、シリア空軍基地攻撃、アフガニスタンで MOAB 使用、韓国に
THAAD 配備、トランプ・金正恩会談の可能性示唆
- ・中国依存／習近平との会談 17.04.06-07 で北朝鮮問題を焦点化（懸案の先送り）、習は「相
性がいい」、「とても聡明」（WSJ04.12）、「中国がわれわれと提携しているときに、なぜ
私が中国を為替操作国と呼ぶだろうか」（ツイッター04.16）
- ・会談内容／中）北朝鮮の重大な挑発（核実験と ICBM 試射）を許さない→中国金融機関・
企業への第二次制裁→第6回核実験を阻止？
米）3長官共同声明 04.26、ティラーソン発言 05.03 以後（北朝鮮に侵攻、政
権転覆しない）
- ・3長官共同声明／「大統領が目指すアプローチは、北朝鮮の核、弾道ミサイル、拡散計画
を解体するために、同盟国や地域パートと共に経済制裁を強化し、外交手段を追求する
ことである」
- ・トランプ 05.01／金正恩と「適切な状況下であれば会談するだろう」「会談は光栄なことだ。
ニュース速報になるだろう」（ブルームバーグ通信）
- ・マティス記者会見 05.19／「もしこれが軍事的解決ということになれば、信じ難い規模の

悲劇になるだろう」「われわれの努力は、国連、中国、日本、そして韓国と共に行動し、この状況から抜け出す方法を見つけることである」

・既視感／ブッシュ政権の北朝鮮政策に類似？

9.11 テロ事件の衝撃→対北恐喝外交／「悪枢軸」02.01、枠組合意の破綻02.12（重油供給停止）、イラク戦争03.03→パウエルが多角外交／中国依存→第1回6者会談03.08
第4回6者会談(4-2)共同声明(05.9)／北朝鮮の核兵器・核計画放棄、米朝国交正常化、日朝国交正常化、エネルギー・経済支援、朝鮮半島の平和体制、北東アジアの安保協力
←金融制裁／第1回核実験06.10

6者会談再開(06.12)→ベルリン交渉(07.1)／6者会談(5-3)合意(07.2)／五つの作業部会

4. 対北政策の再検討—非核化と平和統一政策

1. 我々にとっての最大の課題は何か／核保有についての北朝鮮の過大評価を是正すること
→「核武装しても何も変わらない」、それが「都合な真実」／①を選択させる。
2. そのためには、宥和のための宥和は排除しなければならない。現在／①最大限の制裁(Secondary Sanction)、②最大限の抑止(THAAD, MD etc.)、③拡大抑止の誇示(B-1)、④日米韓の安保協力(GSOMIA)などが実施されたり、されようとしていたりしている。
3. かりにあらゆる努力を無視して、北朝鮮側が核ミサイル（核武装とICBM）の完成に邁進邁進すれば、我々も在韓米軍に戦術核を再配備して、局地的なMAD（相互確証破壊）を完成するほかない。
4. しかし、北朝鮮はすでに「核武装だけでは生き残れない」ことを知っている—北朝鮮は小国だが愚かではない。だから、注意深く交渉の可能性を探ってくるだろう。米国にトランプ政権誕生し、韓国に野党政権出現するという状況は、北朝鮮にとって絶好の機会である。我々もまた、注意深く、忍耐力を持って封じ込める必要がある。
5. 我々の目標は核武装した分断国家を打倒、崩壊させることではない。今日の事態を招いた「失敗の原因」は我々の側にもある／冷戦終結後に朝鮮半島デタント（南北のクロス承認・相互承認）を実現できなかった。金丸、小泉外交の不成功が惜まれる。
6. 北朝鮮の非核化が短期間に実現されることはない。そのために必要とされる段階的なアプローチは、おおよそ①核兵器・弾道ミサイルの実験・開発・配備の凍結と南北間の対話・交流・経済協力の推進、②南北朝鮮の長期的かつ安定的共存とその国際的保障の実現、③連邦制統一と非核化の達成という順序で構成されるはずである。
7. 安倍首相が繰り返し強調するように、日本にとって、韓国は「戦略的利益を共有する最も重要な隣国」である。安保協力を含む緊密な日韓関係を構築するために、韓国の新政権との間で広範かつ緊密な協議を積み重ねる必要がある。歴史や領土問題をその他の分野から切り離す「ツー・トラック」政策を確立することが望まれる。